

様式 32

研究No.
(記載不要)

平成 23 年度配分 研究成果の概要

研究名	SPAC(静岡県舞台芸術センター)15年の活動評価				
特別研究費 配分額	文化芸術研究センター長特別研究費		1000	千円	
特別研究費 執行額			500.359	千円	
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏名	共同研究の 場合の分担
	文化政策	芸術文化	教授	高田和文	演劇活動の評価・z 全体の統括
共同 研究 者	文化政策	芸術文化	教授	片山泰輔	事業活動、経済活動 の評価
	文化政策	芸術文化	准教授	永井聡子	劇場運営の評価
発表の方法 (予定で可)	1 紀要		号数	第 号 (年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:		発表日 (発表 予定日)	平成 年 月 日	
	3 その他 発表の方法:「SPAC15年の活動評価」と して報告書を作成、関係機関に配布する。		発表日 (発表 予定日)	平成 25 年 2 月(予定)	

注:配分を受けた翌年度の7月末までに提出

研究No. (記載不要)	— —
-----------------	-----

平成 23 年度配分 研究成果発表報告書(実績)

研究名	SPAC(静岡県舞台芸術センター)15年の活動評価				
配分を受けた特別研究費	文化・芸術研究センター長 特別研究費			1000 千円	
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究者
	文化政策	芸術文化	教授	高田 和文	他 2 名
発表の方法	1 紀要、学術誌 名称:「15周年を迎えた静岡県舞台芸術センター(SPAC)の変容と課題ー公立劇場と地域社会をつなぐ文化政策の視点から」、学術誌『人文科学』(同志社大学人文科学研究所)(松本茂章) 名称:「劇場法の求める人材と地域政策ー静岡県舞台芸術センター(SPAC)を事例にー」、日本アートマネジメント学会誌『アートマネジメント研究』(美術出版社)(松本茂章)			号 数	第 42 巻第 1 号 (33 頁~74 頁) (平成 24 年 5 月 31 日発行) 第 13 号 (41 頁~42 頁) (平成 25 年 1 月 30 日発行)
	2 学会等での発表 学会等名:日本アートマネジメント学会第 13 回全国大会、分科会 II-3 自治体と芸術文化「公立劇場と地域社会ー財団法人静岡県舞台芸術センター(SPAC)の現状と課題ー」(松本茂章) (日程等は添付資料の通り)			発表日	平成 23 年 11 月 20 日
	3 その他 発表の方法:『SPACの 15 年 創造活動と文化政策をめぐって』として報告書を作成、関係機関・団体に配布。			発表日	平成 25 年 3 月 22 日

- 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。
- 配分を受けた翌年度の 3 月末までに提出

(研究の目的等)

SPAC（静岡県舞台芸術センター）の創立以来、15年にわたる活動を、長期的かつ学術的な観点から評価し、SPAC15年史として報告書を作成する。さらに、その結果に基づいて日本における地域演劇のあり方について提言を試みる。

(研究の実施方法等)

23年度には予備調査、公演及び事業活動に関する各種データの整理を行なった。また、舞台作品と公共文化施設としての両面から評価を行なうため、23年度にはまず演劇研究者、評論家に報告を依頼し、併せて劇場関係者や自治体関係者への聞き取り調査等を行なった。

引き続き24年度には、以上の成果を踏まえて、アートマネジメント、劇場運営の専門家に分析・報告を依頼し、「SPACの15年」として報告書を刊行するための作業を行なった。

(得られた成果等)

SPACの15年の活動を舞台作品の評価と公共文化施設運営の評価という総合的な視点から分析した独自の報告書を作成することができた。

本学にとっては、同じ静岡県内において全国でも独自の運営方法を取るSPACの活動について、学術的な観点から分析し、評価できたことは大きな意義があった。

また、SPACにとっても15年の活動の成果を客観的に評価し、記録を残すことができた点で、非常に有益な研究であった。